

国立女性教育会館女性教育情報センターの 図書パッケージ貸出サービス

匂坂佳代子

抄録：男女共同参画及び、女性・家庭・家族に関する専門図書館である、国立女性教育会館（National Women's Education Center of Japan, NWECC）女性教育情報センターでは、専門分野に特化された図書コレクションを基盤として、平成22年度からNWECC図書パッケージ貸出サービスを実施している。このサービスは、主に全国の大学図書館を中心として展開してきたが、平成25年度からは高校図書館も対象として提供を行っている。本稿では、平成25年度の大学図書館と高校図書館におけるサービス実施例を紹介し、あわせて今後の展望を述べる。

キーワード：国立女性教育会館，女性教育情報センター，男女共同参画，図書パッケージ貸出サービス

1. はじめに

独立行政法人国立女性教育会館（National Women's Education Center of Japan, 以下「NWECC」という。）は、昭和52年に文部省の附属機関として設置された国立婦人教育会館として始まり、平成13年に名称を「国立女性教育会館」と改称、同年に独立行政法人となり現在に至っている。

NWECCのミッションは、女性教育指導者その他の女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、男女共同参画社会の形成に資することである¹⁾。

NWECCには、女性教育情報センター（以下「NWECC情報センター」という。）が設置されており、男女共同参画及び、女性・家庭・家族に関する専門図書館として、様々な資料を国内外から収集し提供している。

本稿では、NWECC情報センターが専門図書館の特色を活かして実施している、大学図書館や高校図書館との様々な連携事業のうち、図書パッケージ貸出サービスの事例を紹介する。

2. NWECC情報センターの特色

NWECC情報センターでは、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する基本的かつ全国的な資料・情報を計画的に収集・整理し、利用者に提供するとともに、レファレンス・サービス、文献複写サービス、図書資料の展示などにより情報提供の充実を図っている。

中でも特色的なのは、専門のテーマに関する図書、雑誌、行政資料等を、市販ルート以外からも細かく収集して、蔵書として備え付けていることである。例えば、地方公共団体等で刊行している調査報

表1 NWECC情報センターの所蔵資料
(平成26年3月31日現在)

種類		和	洋	計
図書	図書 (冊)	77,758	24,376	102,134
	地方行政資料 (冊)	26,106	8	26,114
	計 (冊)	103,864	24,384	128,248
逐次刊行物	雑誌 (誌)	3,237	734	3,971
	新聞 (紙)	74	1	75
その他	新聞切り抜き (件)	364,814	0	364,814
	AV資料 (種)	197	4	201

告書や統計資料を寄贈依頼することにより集中的に収集したり、全国の男女共同参画センター等で発行されるニューズレターを収集し、コーナーを設けたりしている。更に、日々の新聞の中から男女共同参画及び、女性・家庭・家族に関する記事をスタッフが切り抜いて整理・保存する新聞クリッピングを行うと同時に、見出し・人名・キーワード等をNWECC情報センターのデータベースへ登録しており、他では代替できないコレクション、二次情報データベースとなっている。

その結果、主題別の蔵書構成においては75%が社会科学の図書であり、更にその内訳では、日本十進分類法²⁾における360~369(社会)のうち367(女性・家族・性問題)が2万5千冊以上と57%を占め、専門図書館として独自性を発揮している。

NWECC情報センターは、利用者への来館型サービスとして、図書、雑誌、新聞、ミニコミ誌、新聞クリッピングなどの閲覧、図書の貸出のほか、レファレンスへの回答、文献のコピーサービスなどを提供している。さらに遠隔地の利用者にも、イン

ターネット経由で世界中どこからでも使える女性情報ポータル Winet による専門情報の提供³⁾や、電話、FAX、eメールでのレファレンスへの回答、ILL サービス等により、非来館型サービスを展開させている。

3. NWEC 図書パッケージ貸出サービス

NWEC 情報センターでは、専門分野に特化された図書コレクションを基盤とし、平成 22 年度の試行を経て平成 23 年度から本格運用を開始した NWEC 図書パッケージ貸出サービスを実施している。

なお、当サービスの企画や初期の展開の詳細は、市村櫻子情報課長（当時）の“NWEC 図書パッケージ貸出サービス 1 年半”⁴⁾を参照されたい。本稿では、その後の展開として、平成 25 年度の事例について主に紹介する。

3.1 NWEC 図書パッケージ貸出サービスの概要

NWEC 図書パッケージ貸出サービスとは、大学、女性関連施設、公共図書館等の機関を対象に、NWEC 情報センターの蔵書から「男女共同参画」や「女性のライフプラン」「家族問題」など、女性・家庭・家族に関する様々なテーマに合致する図書を、原則 100 冊のパッケージにまとめ、3ヵ月程度、機関に貸し出すサービスである。図書のテーマは、NWEC 情報センターで独自に定め運用している「女性情報シソーラス」⁵⁾に基づき専門スタッフが選定している。

このサービスの目的は、NWEC のミッションである男女共同参画社会の形成の促進のため、大学を始めとした様々な機関に対し図書を一定期間提供することにより、知識と情報の拠点を全国に広めることである。図書を媒体とした「知識」の提供及び、NWEC 情報センターで提供する様々なデータベース等へのアクセスの窓口としての「情報」の拠点を全国に広めることで、NWEC 情報センターの存在のアピールにもつながっている。

平成 22 年度から平成 25 年度までの利用機関数及び、貸出件数、貸出冊数は表 2 のとおりである。

利用機関のうち多くが大学図書館であるが、平成 23 年度には企業の図書室、平成 24 年度には市立図書館にも NWEC 図書パッケージ貸出サービスを行い、館種を超えたサービスの拡大を目指している。

更に、平成 25 年度からは、より若年層への知識の普及を図るため、高校図書館へのサービス提供を開始した。

NWEC 図書パッケージ貸出サービスについて、

表 2 NWEC 図書パッケージ貸出サービス利用機関数及び、貸出件数、貸出冊数の推移
(平成 22 年度～平成 25 年度)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	合計
利用機関数	11	27	24	31	47*
うち、大学図書館数	8	20**	18	23	34*
貸出件数	20	55	63	75	213
貸出冊数	3,850	8,438	6,506	7,989	26,783

* 累計 ** うち 2 館は研究室への貸出

詳しくは以下のホームページを参照されたい。

「女性教育情報センター所蔵図書のパッケージ貸出サービス」

<http://www.nwec.jp/jp/center/page12.html>

3.2 レコピック実証実験

NWEC 図書パッケージ貸出サービスでは、協力の得られた大学図書館を対象に、市村櫻子情報課長（当時）により、帝人、日本ファイリング、インフォコムとの協力を得て、レコピックという書籍管理システムによる利用状況把握のための実証実験を平成 23 年度に開始した。

これは、RFID (Radio Frequency Identification) 技術を使い、ブックトラックの棚板に UHF アンテナシートを敷き、図書に IC タグを貼ることにより、図書が手に取られた数や、棚板から離れている時間を計測するシステムである。これによって、今まで館外貸出回数でしか測れなかった図書の利用について、図書館内での利用についても数値として測れるようになる。そして、その結果を分析することで、潜在的な利用者のニーズとして選書に活かすなど、様々な利用が可能となる。

RFID 技術を使った同様の実証実験として、千葉大学の先例⁶⁾があるが、NWEC 情報センターでは可動式のブックトラックに UHF アンテナシートと PC 本体を搭載しているため、電源さえ確保できれば、場所の制限を受けることなく利用状況観測ができることが特徴である。

ただし、同実証実験では結果の数値に揺れが見られ、平成 25 年度現在で利用状況について分析を行える段階ではないため、本稿では話題提供として取り上げたい。

4. 大学図書館へのサービス提供

4.1 金沢大学附属図書館での実施例

平成 25 年度にサービスを利用した例として、金

沢大学附属図書館を紹介する。

金沢大学附属図書館（中央図書館）では、平成25年5月から同サービスの利用を開始した。3ヵ月ごとに100冊ずつパッケージ内容が入れ替わる他、レコピック・ブックトラックもあわせて設置し利用状況の観測を行った。

レコピック・ブックトラックの設置場所は、同館の担当者によれば、入口ゲートから入って新着図書をチェックする利用者の目に留まりやすい場所であり、カウンターから適度に離れているため、通りすがりに立ち止まる学生もいるとのことである。



図1 金沢大学附属図書館（中央図書館）での利用例

同館で平成25年度に利用したパッケージのテーマは、以下のとおりである。

- ・5月～7月：いのち、貧困、男性論
- ・8月～10月：セクシュアリティ、セクハラ、児童虐待、児童福祉、人間関係、男女共同参画（1）
- ・11月～1月：セクシュアリティ、セクハラ、児童虐待、児童福祉、人間関係、男女共同参画（2）
- ・2月～4月：労働とジェンダー、セクシュアリティ、男女共同参画、ジェンダー

8月～10月のテーマと11月～1月のテーマは同一であるが、図書は各100冊全て異なるものである。

本稿では、同館で利用状況の観測を実施した中で利用の多かった平成25年5月～7月のパッケージの利用状況を紹介する。

平成25年5月～7月の館外への貸出冊数は、表3のとおりである。

表3においては、特に学部生の貸出冊数が多いが、その他にも教職員や一般市民による貸出があることも特徴的である。NWEC情報センターでは、大学向けには学部学生を主な対象として想定し選書しているが、教職員や一般市民の貸出にも結びつく結果となった。

表3 金沢大学附属図書館（中央図書館）のパッケージ図書貸出冊数（身分別、月別、平成25年5月～7月）

	5月	6月	7月	計
学部生	15	34	26	75
大学院生	1	2	1	4
研究生	2	1	1	4
教職員	6	0	1	7
一般市民	8	1	0	9
合計	32	38	29	99

また、テーマ別の貸出冊数は表4のとおりである。

表4 金沢大学附属図書館（中央図書館）のパッケージ図書貸出冊数（テーマ別、平成25年5月～7月）

テーマ	貸出冊数
いのち	38
貧困	31
男性論	30
合計	99

表4から、いずれのテーマについても満遍なく貸出されている結果となった。

更に、貸出回数の多かった図書の上位10タイトルを表5に示す。

表5 金沢大学附属図書館（中央図書館）のパッケージ図書貸出タイトル（貸出回数順、上位10、平成25年5月～7月）

	貸出回数(回)	タイトル	テーマ
1	4	子どもの貧困と社会的排除	貧困
2	3	セックス嫌いな若者たち	いのち
2	3	ベビー・ビジネス	いのち
2	3	高校生と大学一年生のための倫理学講義	いのち
2	3	出生前診断の法律問題	いのち
2	3	性役割	貧困
2	3	日本の教育格差	貧困
2	3	普通のダンナがなぜ見つからない?	男性論
2	3	恋愛を考える	男性論
2	3	労働ダンピング	貧困

表5から、特定の図書に貸出が集中したという訳ではなく、多くの図書が幅広く貸出されたことが明らかとなった。

4.2 レコピック・ブックトラックの実証実験結果

レコピック・ブックトラックの実証実験は、平成23年度から協力の得られた数大学の図書館において実施し、平成25年度には、金沢大学附属図書館（中央図書館）において実施した。

平成25年5月～7月に実施したレコピック実証実験結果として、表6にテーマ別のパッケージ図書利用回数を、表7に館内利用回数の多かった図書の上位10タイトルを示す。

表6 金沢大学附属図書館（中央図書館）のパッケージ図書館内利用回数（テーマ別、平成25年5月～7月）

テーマ	館内利用回数（回）	館内利用時間	平均利用時間（分）
いのち	395	62時間28分	9.5
貧困	92	9時間20分	6.1
男性論	146	24時間58分	10.3

表7において、館内利用回数の多い「ウーマンズヘルス：女性のライフステージとヘルスケア」と「産科医が消える前に：現役医師が描く危機回避のシナリオ」は、利用状況をアウトプットした一つ一つの原データを見た結果、明らかに不正確なデータは除外したものの、中には揺れであるか判別できないデータも存在したため、館内利用回数が突出して多かったり、館内利用時間が短かったりするのはおそらく揺れが含まれるのではないかと推測される数値となった。今後、揺れが少なくなれば、実践的な数値として活用できると考える。

例えば、現在は館外貸出回数でしか把握できない自館の利用者のニーズについて、館内利用状況という潜在的な利用が明らかになることにより、より幅広い選書ツールとして利用できる。また、館内の

様々な場所にレコピック・ブックトラックを配置することにより、場所ごとに館内利用状況が観測できるため、利用者の動線調査や館内のマッピング等にデータを活用できるのではないと思われる。更に、表5の貸出回数と比較することで、より詳細な利用状況調査にも役立つと考えられる。

5. 高校図書館へのサービス提供

5.1 高校図書館へのサービス案内

平成25年度から、より若年層への知識の普及を図るため、高校図書館へのサービス提供を開始した。

開始に当たっては、NWEC情報センターと高校図書館との連携がそれまであまりなかったことから、埼玉県内の女子高校や、連携のある私立大学の系列の女子高校にサービスの案内を行い、展開を図ることとした。

平成25年11月には、ライブラリー・アド・サービス社の「本を選ぶ（高校図書館版）」No.56にサービス案内を掲載することができたため⁷⁾、全国の主に公立の高校図書館を中心として一斉に案内できた。

なお、平成25年度からサービスを開始した図書館の中には、中高一貫の私立女子高校の図書館も含まれる。中高一貫校の利用対象者は中学生及び高校生であるが、中学生も対象に加えることはより若年層への知識の普及という目的に沿うため、実施に含めた。ただし、中高一貫校の場合は、高校生を主な対象として選書を行った。

5.2 十文字中学・高等学校図書館でのサービス実施例

平成25年度に利用した高校図書館として、十文

表7 金沢大学附属図書館（中央図書館）のパッケージ図書館内利用タイトル（館内利用回数順、上位10、平成25年5月～7月）

	館内利用回数（回）	館内利用時間	タイトル	テーマ
1	239	5時間53分	ウーマンズヘルス：女性のライフステージとヘルスケア	いのち
2	18	9分	産科医が消える前に：現役医師が描く危機回避のシナリオ	いのち
3	14	2時間13分	男子草食化、女子肉食化のススメ：自立への助走	男性論
3	14	1時間42分	生まれてはならない子として	いのち
5	11	4時間27分	オヤジの取説	男性論
5	11	2時間00分	産む、産まない：妻たちのつぶやき	いのち
5	11	1時間13分	普通のダンナがなぜ見つからない？	男性論
8	9	2時間13分	無能力批評：労働と生存のエチカ	貧困
8	9	48分	民衆が語る貧困大国アメリカ：不自由で不平等な福祉小国の歴史	貧困
8	9	39分	格闘する思想	男性論

字中学・高等学校図書館を紹介する。

十文字中学・高等学校図書館は、中高一貫の女子高校に設置されている図書館であり、利用者は中学生と高校生である。生徒数は、中学生約700名、高校生約1,000名である。同館の蔵書数は5万8千冊以上であり、新聞、雑誌、AV資料も多数備えている。

同校の校長及び司書教諭の協力のもと、平成25年9月末から平成26年2月末まで、50冊の図書をパッケージ貸出した。パッケージのテーマは以下のとおりである。

- ・女性のキャリア、ライフプラン
- ・進路、仕事
- ・デートDV、セクシュアリティ

上記のテーマとしたのは、平成25年9月に同館で司書教諭にヒヤリングを行った際、学校として進学に重点を置いているため進路やキャリアに関する図書を主としてほしいが、その他にも身近な話題として取りやすい内容の図書があると良い、との要望を受けたためである。テーマの選定後、NWEC情報センターにおいて主に高校生が興味を持つと思われる図書のリストを作成し、司書教諭とやりとりを重ねながら最終リストを決定した。

同館へ貸出した図書の例を、以下に示す。

- ・「美キャリア養成講座：自分らしく生きる！7つの実践モデル」西村由美著、日本地域社会研究所、2012年
- ・「ワーク・シフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図「2025」」リンダ・グラットン著：池村千秋訳、プレジデント社、2012年
- ・「なおこ、宇宙飛行士になる」山崎直子著：松井晴美絵、角川書店、2010年
- ・「ダイヤに輝く鉄おとめ」矢野直美著、JTBパブリッシング、2010年
- ・「デートDV：愛か暴力か、見抜く力があなたを救う」遠藤智子著、KKベストセラーズ、2007年
- ・「ジェンダー論をつかむ」千田有紀著、有斐閣、2013年

また、同館では、平成25年11月に生徒がNWEC情報センターに来館し選書を行うNWEC選書ツアーも実施し、その結果、30冊の図書を追加でパッケージ貸出した。

5.3 NWEC選書ツアーの実施例

NWEC選書ツアーとは、図書パッケージ貸出の発展形として位置づけているサービスであり、女性

のキャリア・モデルや生き方を社会背景とともに図書を通じて伝え、あわせて授業との連携、図書館の利用への結びつけ、高校図書館や大学図書館へのNWECの案内等、館種を超えた幅広い連携を強化していくことを目的としている。

NWEC選書ツアーのおおよその流れは、以下のとおりである。

- ・来館した参加者に専門スタッフが情報検索のレクチャーを行う
- ・参加者が各自興味のあるテーマで図書を検索、書架をブラウジングし、仲間や後輩に手に取って欲しい図書を選書する
- ・選書された図書を、NWEC図書パッケージ貸出として図書館宛に数ヶ月間貸し出す
- ・参加者が推薦コメントを作成し、帯として図書に巻き、図書館で展示する

同サービスは、平成25年3月に十文字学園女子大学図書館との連携事業として試行した後、11月に十文字中学・高等学校図書館と連携し、生徒9名、引率1名（司書教諭）により3時間程のプログラムで実施した。

実施の様子を図2、図3に示す。また、生徒による推薦コメントの作成と展示の様子を図4に示す。なお、図2、図3では、要望により画面を一部修正している。

NWEC選書ツアーにより、特に高校生や大学生といったこれから社会へ進む若者が、男女共同参画に関する豊富な資料に直に接することで、柔軟な思考を身につけ、自分の将来を広い視野を持って考えてもらうことを期待している。



図2 十文字中学・高等学校の生徒によるNWEC選書ツアーの様子(1) 図書を検索する



図3 十文字中学・高等学校の生徒による NWEC 選書ツアーの様子 (2) ブラウジングし選書する



図4 十文字中学・高等学校の生徒による NWEC 選書ツアーの様子 (3) 推薦コメントを作成し展示する

6. 課題

NWEC 図書パッケージ貸出サービスにおいては、男女共同参画に関する比較的新しい図書を提供する方針であるため、利用機関数が飛躍的に増加するに伴い、NWEC 情報センターで購入した新規図書の多くが NWEC 図書パッケージ貸出サービスにより貸出されて、NWEC 情報センターでの所蔵が手薄となる状態となった。

更に、より若年層への男女共同参画の知識の普及という館の方針に基づき、平成 25 年度からは高校

図書館へのサービス提供を開始するなど、今後もより多く幅広い館種・利用者層への普及を図るべく事業を推進している。

これらの結果、今までどおり NWEC 情報センターに図書が揃っていると思われ来館した利用者の要望に応えられなかったり、レファレンスのために必要な資料がなかったりするという問題が発生した。NWEC 情報センターでは、この問題に対し、平成 24 年度に選書方針を見直し、NWEC 図書パッケージ貸出サービスの推進に焦点を合わせ、従来実施していた新聞書評や書店の Web サイトからの選書に加えて、紀伊國屋書店の新刊自動配本サービスであるキノコレ配本システムを利用し見計らい図書からの選書を行ったり、複本を購入したりし、より重点的に資料収集を行った。しかし NWEC 情報センターの新規図書の所蔵不足という状況はあまり緩和されず、今後のサービス提供の方針を館内で検討した結果、平成 26 年度からサービス提供に利用年限(4 年度)を設けることとした。そのため、平成 26 年度は、特にサービスを立ち上げた初期において様々な協力をお願いをし、共にサービス展開を担っていただいた数大学の図書館に対して、やむなくサービスの中止をお願いすることとなった。

7. 今後の展望

NWEC 図書パッケージ貸出サービスは、平成 22 年度の試行から 4 年が経過し、全国の大学図書館を中心に利用機関数が順調に増加し、サービス件数も安定するなど、サービスが全国的に徐々に根付き始めている。

今後は、男女共同参画の知識と情報の普及を、より幅広い利用者層へ届けていきたいと考えている。そのため、当サービスをご利用いただくことにより、当館の図書が男女共同参画をより身近に感じられるようになる糸口となり、その後各機関での様々なサービス展開へつなげていただければ幸いである。

サービス展開の一例として、NWEC 図書パッケージ貸出サービスを NWEC 情報センターと利用機関との 1 対 1 でやりとりするだけではなく、地域での図書館ネットワークの中に NWEC 図書パッケージ貸出サービスを取り込んでいただき、地域の図書館ネットワーク形成にも役立てながら男女共同参画の知識と情報の拠点を広める方法も効果的と思われる。

謝辞

本稿で紹介した図書パッケージ貸出サービスを進

めるに当たり、関係者の皆様方には温かいご支援とご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

また、本稿を執筆するに当たり、金沢大学附属図書館（中央図書館）及び、十文字中学・高等学校図書館のご担当の方には、多岐にわたりご協力をいただきました。深謝いたします。

注・引用文献

- 1) “2013年国立女性教育会館概要”. (オンライン). <http://www.nwec.jp/jp/data/outline.pdf>, (参照 2014-01-07).
- 2) NWEC 情報センターで使用しているのは NDC8 版である。
- 3) “女性情報ポータル Winet”. <http://winet.nwec.jp/>, (参照 2014-01-07).
- 4) 市村 櫻子. NWEC 図書パッケージ貸出サービス 1

年半：男女共同参画の情報と知識を若い世代に. NWEC 実践研究. 2012, no. 2, p.182-198. <http://id.nii.ac.jp/1243/00016729/>, (参照 2014-05-28).

- 5) 国立女性教育会館. “女性情報シソーラス”. <http://www.nwec.jp/jp/portal/page03.html>, (参照 2014-01-07).
- 6) 野田英明, 千葉明子, 鈴木宏子, 竹内比呂也. 千葉大学における「授業資料ナビ」の展開と RFID を活用した資料利用状況の評価. 平成 22 年度教育改革 ICT 戦略大会. http://www.juce.jp/archives/tai_kai_2010/e-04.pdf, (参照 2014-01-07).
- 7) 国立女性教育会館情報課. 高校図書館へ本の貸出始めました. 本を選ぶ. 2013, no.56, p.2-3.

< 2014.1.10 受理 さぎさか かよこ 国立女性教育会館情報係長 >

Kayoko SAGISAKA

Book package lending service at Information Center for Women's Education of National Women's Education Center of Japan

Abstract : The Information Center for Women's Education at National Women's Education Center (NWEC Information Center) is a special library for research on women, gender and family. Utilizing its specialized collection, the Information Center began a book package lending service to other institutions in 2010. Though this service started mainly with university libraries, it expanded to include high school libraries in 2013. This paper illustrates the service with some cases in 2013 and considers the outlook for the future.

Keywords : National Women's Education Center of Japan / Information Center for Women's Education / gender equality / book package lending service